

讀本指導と朗讀法

(6) 大將の幼年時代と讀者たる兒童の生活を比較させ、大いに反省させる事は勿論、自己の生活反省を記述させるがよい。

(7) 新出漢字、讀替漢字が相當に多く、中には誤り易い文字もあるから、正しく授け運用自在ならしめなければならぬ。

(二) 挿畫

百四十五頁のは、父希次が寒いと言つた大將を井戸端へ連れて行き、裸の大將に冷水を浴びせてゐる所、梅の木は嚴寒の爲めに一葉もない。

百四十七頁のは、明治四十三年五月、六十二歳の時の寫眞といはれる。正装して金鷄勳章の副章、桐花大綬章と従軍徽章とを佩用して居られる。

(三) 準備

(1) 掛圖や大將の各種の寫眞を用意するがよい。

(2) 大將に関する各種の讀物がある。出来るだけ備へて讀ませるがよい。

参考

乃木院長記念録を見るがよい。

讀本指導と朗讀法 卷七 (終り)

昭和十二年四月十日印刷
昭和十二年四月十七日發行

【定價一圓二十錢】

東京朗讀研究会
代表者

著作者 藤野重次郎

發行者 河出孝雄
東京市日本橋區通三丁目一番地

印刷所 福神製本印刷所
東京市京橋區銀座西一ノ七番地

東京・日本橋・通三丁目
發行所 成美堂

電話東京一七一九番
電話日本橋二七七七番

尋常科用

讀本指導と朗讀法

卷七







